くすの木

小林市立小林小学校　　校長通信
令和６年１０月８日　　第５６号　（文責　校長　吉井秀一）
TEL: (0984) 23-3510　E-mail:1401eb@miyazaki-c.ed.jp

ようやく暑さも和らぎ、学校も折り返しを迎えようとしています。この間にどれくらい大きくなったか。どんなことができるようになったか。学年の半分を終えたお子さんの成長をどのように感じておられますか。

この半年で約一００日も通い、毎日約七時間を過ごした学校。学校は、子どもにとって生活と成長の舞台です。

できるようになったことを喜んだり、友だちや勉強のことに悩んだり…。一人一人が様々な一００日を過ごしてきました。

このような学校での成長の様子をお知らせするのが「あゆみ」です。そこには、子どもが家では見せていないよさや活躍、教師の思いや励ましが記されています。

ぜひ、お子さんと一緒に成長を喜び合う材料にしていただきたいと思います。

「なりたい！」を伸ばす

今年４月、日本ＦＰ協会が発表した「小学生『将来なりたい職業』ランキング」によると、男子は「サッカー選手・監督」、女子は「医師」が昨年に続いて１位になっています。男女の区別が必要かは置いといて…、身近な職業を探してみると「会社員・事務員」（男子６位）、「保育士」（女子４位）、教師はかろうじて女子の６位です。

小学生のうちは、メディアや身近にいる人を通して「あこがれ」を抱いた職業を答えることが多いでしょう。だんだん成長すると現実的になり、周りの声（たいていはマイナス？）も気にしながらその範囲が狭くなり絞られていきます。人は自分で夢の入れ替えをしながら大人になっていくのかもしれません。どんな職業であれ、子どもたちには「〇〇になりたい」という大きな夢や強い希望をもってほしいものです。

子どもが、大きすぎる夢を語っても、また、夢や希望がクルクル入れ替わったとしても、私たち大人は否定することは避けましょう。我々大人も自分の周りの狭い現実を知っているだけで、子どもの可能性を否定する根拠は何も持っていないのです。また、そのゴールは18歳とか20歳などの若いうちとは限りません。40、50歳まで夢を持ち続けて実現させる人もいます。

では、その夢や希望に向かう力はどのように育つのでしょう。いつも叱られ、可能性を否定され続けると、人は自己肯定感や自己有用感を失います。「自分なんてどうせできやしない。」とあきらめた時から面倒なことを避け、努力することの苦しみも、達成したときの喜びも味わうことなく、自分を好きになるチャンスと目標を失います。

反対に、結果は失敗に終わっても挑戦した勇気をほめられ、悩んだ時には励まされ、「きっとできる」と信じてくれる人がそばにいれば、自分を大切にし、自分の可能性を信じ、やがて自分の道を歩み始めるでしょう。

高学年の子は、10年もすれば社会に出る大人です。今、子どもの夢や希望を大きく育てておかなければ、周りの大人には、いつまでも子どもの看護から手が離れない未来が待っているでしょう。

あふれる情報から良いものを選び、豊かな体験をし、人と出会ってあこがれる…。私たち周りの大人は、子どもが自ら夢や希望を見付ける環境を準備し、良い刺激が与えられているかを見守りながらサポートすることが重要です。

「ねえ。将来、何になりたいと思ってるの？」

一度、ストレートに聞いてみてはいかがでしょう。

できていますか？　先日、地域の方から「あいさつを返さない子がいます。」とのご指摘を受けました。あいさつは身に付けておくべき社会的なツールです。できているか？まずは点検から。

【学校スナップ】

9月24日（火）に全校のみんなが集まって運動会の結団式がありました。
まずは、みんなで考えた今年のスローガンが発表されました。

「みんなで　けがなく　一致団結し
熱い心で　最後まで　楽しい運動会にしよう！」

「みんなで」「楽しい」のキーワードがうれしいですね。

次に
3人の団長によって
今年の団の色が決まりました。
今年は何団になったかな？

みんなでつくる運動会。
みんなでがんばりましょう。